### 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392400061			
法人名 株式会社 ニチイ学館				
事業所名	ニチイケアセンター半田ひいらぎ			
所在地	愛知県半田市柊町五丁目12番地の11			
自己評価作成日	平成26年10月10日	評価結果市町村受理日	平成27年	4月21日

### ※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action\_kouhyou\_detail\_2014\_022\_kani=true&JigyosyoCd=2392400061-008PrefCd=238VersionCd=023

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

62 軟な支援により、安心して暮らせている

(参考項目:28)

評価機関名 株式会社 中部評価センター				
	所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
	訪問調査日	平成26年10月20日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型の施設をめざすことを念頭に入れ、地域とのつながりを密にしてきた結果、施設の存在を少しずつ認識されてきた感じがします。ニチイ祭りでは近所の方や他の施設のお客様も参加していただき、今後もこのような機会を増やすことができれば良いと思います。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

現在は、職員の諸事情等で休職者が出ていることもあり、管理者自らが支援に携わる日が多くなっている。一言で人手不足という状況下、職員の持つ上昇志向とやる気には目を見張るものがる。両ユニットのリーダーはじめ短時間のパート職員に至るまで、現状の中でできる事を探し、、日常支援ばかりではなく、利用者の個別の楽しみを支援している。「問題山積で、色々なことを考えている余裕もない」と管理者は言葉にしているが、管理者自身が現場に出ることによる職員双方の有効性は高く、管理者には現場が見え、職員には管理者が見えるという、新たな信頼関係の構築にも波及が見られる。利用者家族との連携、職員の確保・育成等、管理者と職員が同じ課題意識を持ち、改善を図っている。

#### Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します 取り組みの成果 取り組みの成果 項目 項目 ↓該当するものに〇印 ↓該当するものに〇印 1. ほぼ全ての利用者の 1. ほぼ全ての家族と 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向 2. 利用者の2/3くらいの めていることをよく聴いており、信頼関係ができ 2. 家族の2/3くらいと 56 を掴んでいる 63 3. 利用者の1/3くらいの ている 3. 家族の1/3くらいと (参考項目:23.24.25) 4. ほとんど掴んでいない (参考項目:9,10,19) 4. ほとんどできていない 1. 毎日ある 1. ほぼ毎日のように 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 2. 数日に1回程度ある 2. 数日に1回程度 57 がある 64 域の人々が訪ねて来ている 3. たまにある O 3. たまに (参考項目:18,38) (参考項目:2.20) 4. ほとんどない 4. ほとんどない 1. ほぼ全ての利用者が 1. 大いに増えている 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 2. 利用者の2/3くらいが 2. 少しずつ増えている 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所 (参考項目:38) 3. 利用者の1/3くらいが の理解者や応援者が増えている 3. あまり増えていない (参考項目:4) 4. ほとんどいない 4. 全くいない 1. ほぼ全ての利用者が 1. ほぼ全ての職員が 利用者は、職員が支援することで生き生きした 2. 利用者の2/3くらいが 職員は、活き活きと働けている 2. 職員の2/3くらいが 59 表情や姿がみられている 66 3. 利用者の1/3くらいが (参考項目:11.12) 3. 職員の1/3くらいが (参考項目:36.37) 4. ほとんどいない 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての利用者が |1. ほぼ全ての利用者が 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけてい 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 2. 利用者の2/3くらいが 2. 利用者の2/3くらいが 60 る 67 足していると思う 3. 利用者の1/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが (参考項目:49) 4. ほとんどいない 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての利用者が 1. ほぼ全ての家族等が 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な 職員から見て、利用者の家族等はサービスに 2. 利用者の2/3くらいが 2. 家族等の2/3くらいが 61 く過ごせている 68 おおむね満足していると思う 3. 利用者の1/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが (参考項目:30.31) 4. ほとんどいない 4. ほとんどできていない 1. ほぼ全ての利用者が 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔

2. 利用者の2/3くらいが

3. 利用者の1/3くらいが

4. ほとんどいない

# 自己評価および外部評価結果

## [セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自	外項目	自己評価	外部評価	<u> </u>	
己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.E	里念(	こ基づく運営			
1		〇理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理 念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して 実践につなげている	職員全体で社是・経営理念を唱和しその実践に 努めている	朝礼での法人理念唱和は継続している。職員の 意識統一を図り、日常支援に反映できるように、 管理者・リーダーが指導に当たっている。	
2	(2)	〇事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	町内会に入会し地域の一員として交流したり盆 踊り大会に参加している	町内会加入し、地域行事であるゴミ拾い、交通安全の立ち当番等に参加して、地域住民と交流を図っている。盆踊り、地域の神社への初詣等、地域との関わりの継続もある。また、地域ボランティアを活用し、来訪者との交流を通じ、利用者の楽しみごとへと繋げている。	
3		〇事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている	地域運営推進会議のなかで認知証に関する勉 強会等を開いて地域の方々と情報を共有してい る		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かし ている	会議の内容を全職員とお客様のご家族に報告し そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の会議を開催している。利用者・家族、市担当者や地域包括支援センター、地域代表等の参加を得られ、様々な議題を協議している。また、毎回テーマを決め、介護に関する勉強会を行っている。	
5	(4)	〇市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所 の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝 えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月10までには入居者情報提供書を提出している る また毎月空き室情報を報告している	運営推進会議へは毎回の参加があり、ホームの 実状、状況を把握してもらっている。また、毎月、 市に入居状況を報告し、適切な運営に助言を仰い でいる。運営に関する相談・連絡を通じ、良好な関 係構築がある。	
6	(5)	〇身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サー ビス指定基準及び指定地域密着型介護予防サー ビス指定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて 身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が具体的な拘束行為とは何かを理解し施錠 を含め身体拘束を最低限にしている	勉強会等での職員周知の他、運営推進会議においても拘束と虐待をテーマに勉強会を行い、ホームに関わる人に正しい理解を啓蒙している。職員は、日常支援の中で、身体拘束について具体的に考え、拘束「O」の方針に沿って支援している。	
7		〇虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待を「しない」「させない」「見逃さない」の会社スローガンをリビングに掲示し職員に注意喚起している		

自	外	項目	自己評価	外部評価	<b>т</b>
自己	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		〇権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年 後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要 性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支 援している	地域運営推進会議で成年後見制度の勉強会を 開いたりユニット会議等で話し合う機会をつくってい る		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や 家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行 い理解・納得を図っている	管理者が十分な説明をおこない理解と納得を得 ている		
10		○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員な らびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている	ご家族様が来所された際に職員が意見・要望を 聞く時間を設けている	ている。随時の電話連絡の折にも、状況説明の都度に意見や意向を聴取している。入居年数の長い利用者が多く、共に運営を考える関係構築があ	現在のホームの人員体制の影響で、毎月発行の月報がなくなってしまったことに、家族から「寂しい」との温かいメッセージがあることから、今後の活動への再考が期待される。
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ホーム内会議で職員の意見を聞いたり日常業 務を通じて職員の意見を聞くよう努めている	を図っている。現場に出ている管理者が、支援の	意見・提案等、思いを伝える機会はあるが、人員体制の影響で全体会議開催が難 しい現状と、意見反映の滞りには課題を 感じるところである。今後の取り組みに期 待したい。
12		〇就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境づくりに努めている		
13		〇職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	法人主催の介護職員導入研修やサービステクニカル 研修等に参加する機会を設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	知多半島内の同業者の方が集う会に参加し講演 会の出席・食事会をして交流に努めている		

自	外	項目	自己評価	外部評価	<b>т</b>
自己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II .3	と心が	:信頼に向けた関係づくりと支援			
15		〇初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	お客様の意見を傾聴し安心していただける関係 作りに努めている		
16		〇初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	お客様のご家族の意見を傾聴し信頼関係を築くように努めている		
17			相談を受けたときに何が一番必要とされている のか見極めるようにし他のサービス利用も提案して いる		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様とのコミュニケーションを大切にし共同生活をお くる者としての関係作りに努めている		
19		〇本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	お客様のご家族さまとのコミュニケーションを大切にし 共に本人を支えていく関係を築くよう務めている		
20	(8)	〇馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人の自由な面会を支援し関係が途絶えないように努めている	入居年数が長い利用者が多く、入居前の関係継続は難しい状況であることから、本人が大切にする家族関係の継続や、親戚や友人との関係継続支援が中心になっている。また、個別外出で自宅に様子を見に帰る支援の事例もある。	
21		〇利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	お客様同士が安心して穏やかな生活ができるよ うな環境づくりに努めている		

自	外	項目	自己評価	外部評価	<u> </u>
自己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても必要に応じて本人家族の相談 に応じるよう努力している		
${f III}$ .	その	人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン	<b>-</b>		
23	(9)	〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	個々のお客様やご家族の思いを把握するように 努めている	日常の関わりの中で、本人の意向や希望を聴き取り、把握している。本人から訴えのある場合も多く、意向を聴き取り、実現に向けて取り組んでいる。継続的な支援は介護計画に組み込んでいる。	
24		〇これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々のお客様の生活暦や生活環境の把握に努 めている		
25		〇暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	個々のお客様とのコミュニケーション・様子観察・介護 記録等を通して一人ひとりの暮らしの現状把握 に努めている		
26	(10)	〇チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	本人・家族・必要な関係者との話し合いやホーム内 での話し合いを通して本人の現状に即した介護 計画の作成に努めている	本人の状態や状況に合せ、3ヶ月から6ヶ月毎に 見直しを行っている。ユニット毎のケアカンファレン スでモニタリングと評価を実施し、職員意見を集約 して介護計画を立案することを原則としている。家 族の意見・要望は直接聴き取りを行っている。	サービス担当者会議等、介護計画のモニタリングや評価、内容を話し合う機会に、本人と家族の参加が望まれる。一堂に会する席での説明や話し合いで、本人と家族の意向もより現実化の有効性が期待できる。
27		〇個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき等を介護記録に記入し職員間の情報を共有して介護計画に活かしている		
28		〇一人ひとりを支えるための事業所の多機能化本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況に応じて柔軟な支援やサービスの多機 能化に努めている		

自	外		自己評価	外部評価	ш
自己	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		〇地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握 し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな 暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の状況に適した地域資源を把握し安全で豊かな暮らしを楽しむことができるように支援している		
30	(11)	〇かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得 が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きな がら、適切な医療を受けられるように支援している		ホーム協力医の定期的な往診を支援している。医療連携の訪問看護師の週1回の訪問で、利用者の健康管理を行い、主治医との連携を図っている。その他、訪問歯科の往診支援もある。現在は、利用者全員がホーム協力医をかかりつけ医としている。	
31		づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝え て相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を 受けられるように支援している	提携医の看護師や訪問看護ステーションの看護師の往診時に本人に関する情報を伝達し適切な治療が受けられるよう支援している		
32		〇入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、 又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係 者との情報交換や相談に努めている。あるいは、 そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり を行っている。	本人・家族・必要な関係者との話し合いやホーム内 での話し合いを通して本人の現状に即した介護 計画の作成に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い 段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所 でできることを十分に説明しながら方針を共有し、 地域の関係者と共にチームで支援に取り組んで いる	本人・家族および提携医と話し合い重度化や終末期のあり方について方針を共有し支援を行えるように支援している	早い時期に本人・家族と話し合い、個人毎に支援方針を決めている。本人の状況や状態に変化があった場合も同様に、話し合いを重ね、本人に最善の方法を選択できるように支援している。現在の入居者も、ホームでの看取りを希望している利用者がおられることから、職員周知で情報を共有し、適切に支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職 員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行 い、実践力を身に付けている	年2回の消防署指導のもとで防災訓練時に救命 救急訓練を受けている また職員全員は消防署 主催の初級救命救急講習を受講済みである		
35	(13)	〇災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を全職員が身につける とともに、地域との協力体制を築いている		年2回の避難訓練を実施している。消防署の立ち会いで避難経路、一次避難場所の確認も行っている。また、職員の9割が初級救命救急講習を受講し、利用者のもしもの場合に備えている。飲食料の備蓄は、各階で分割保存をする工夫がある。	

自	外	項目	自己評価	外部評価	<b>I</b>
自己	部	惧	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV.	その	人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36		〇一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを 損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し失礼の無い言葉遣い や対応をしている	排泄介助やおむつ交換、入浴支援等、特にブライ バシーの配慮が必要となる支援については、本人 の意思を尊重し、出来る限り同性介助を行ってい る。日常支援の声掛けや話の内容についても、本 人が不快にならないように、人格尊重に努めてい る。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	お客様の希望を傾聴し自己決定の実践に向けて 支援している		
38		〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの思いを傾聴しその人らしい暮らしの 実践に向けて支援している		
39		〇身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	本人が好む見出しなみやおしゃれができるように 支援している		
40		〇食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	お客様の好みが活かされた食事作りに努めている またお客様に後片付けを一緒にしていただい ている	地域の大型スーパーのネットスーパーを活用し、 食材を調達している。職員が、材料の中から利用 者の希望に沿って献立を考え、楽しみの食事にな るように提供している。できる人ができる事を手伝 い、日常生活の張り合いの支援につなげている。	
41		〇栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態やカ、習慣に 応じた支援をしている	食事量・水分摂取量を介護記録に記録し適切な 栄養摂取・水分摂取確保に努めている		
42		〇口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎食後口腔ケアを行っている 夜間は義歯の洗浄 をおこない口腔内の清潔保持に努めている		

自	外	項目	自己評価	外部評価	西
自己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		〇排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとり の力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレで の排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンにあった介助を行い排 泄の自立に向けた支援をしている	トイレでの排泄を基本に、利用者の状態と状況に合わせ、適切に支援している。声掛けや誘導、排泄パターンを把握した時間誘導、立ち上がりが困難な利用者には二人介助を行う等、利用者一人ひとりに合わせ、対応している。	
44			便秘予防のため適切な水分摂取や食物繊維摂取にこころがけている また毎日ラジオ体操を実施している		
45	, ,	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決 めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望を聞いて入浴していただき入 浴が楽しい時間になるように努めている	毎日の入浴を提供し、個人毎には、毎日の入浴はもちろんの事、最低でも2日おきには入浴ができるように支援している。利用者毎に湯をはり替え、気持ちよく入浴してもらう配慮もある。2人介助で対応できる間は湯船に入ってもらい、入浴の楽しみを支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じて就寝・起床していただき安心して気持ちよく眠られるように支援している		
47		〇服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用 法や用量について理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	お薬手帳を活用して薬の用法・用量・副作用等を 職員が理解している 服薬後の状況を観察して 提携医との情報共有に努めている		
48		〇役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や楽しみごとを聞き日々の生 活に活かされるよう努めている		
49		〇日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿って散歩や買い物に出かけられるよう支援している また家族との外出・外泊との支援も積極的に行っている	ホームのワックスがけの日に、全員で出かける恒例の日帰り旅行は、家族も参加する楽しみの行事となっている。現在は介護度の差で全員外出が困難になってきている事から、個別支援に力を入れ、地域資源を活用した個別外出を行っている。スーパーへの買い物、外食等、利用者の希望に沿っての外出に努めている。	

自	外	-= D	自己評価	外部評価	<u> </u>
自己	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解し ており、一人ひとりの希望やカに応じて、お金を所 持したり使えるように支援している	個々の希望に沿ってお金が使えるように支援している 一人ひとりにお小遣い帳を作成し金銭管理を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙 のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りが自由にできるように支 援している		
52		〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るく清潔に保ち居心地良く過せる ように支援している	季節感を取り入れた飾り付けや思い出の写真の 掲示、利用者の作品の掲示等、居場所づくりに工 夫している。清潔保持の意識も高く、快適な生活 空間を保持している。	
53		〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利 用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の 工夫をしている	共用空間のテーブル席は気の合ったお客様同士で 過せるように配慮している		
54		〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし て、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしてい る	を置いたり飾ったりして自分の部屋として居心地	居室には持ち込みが多く、利用者一人ひとり違った雰囲気の居室となっている。家族の協力もあり、季節毎の衣替えや家具の配置換え等、利用者の居心地の良さを考えた環境を作っている。	
55		〇一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	一人ひとりのできること・できないことを個々の職員が把握してできるだけ自立した生活がおくられるように支援している		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392400061	392400061		
法人名	株式会社 ニチイ学館			
事業所名	ニチイケアセンター半田ひいらぎ			
所在地	愛知県半田市柊町五丁目12番地の11			
自己評価作成日	平成26年10月 9日	評価結果市町村受理日 平成27年 4月21日		

### ※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action\_kouhyou\_detail\_2014\_022\_kani=true&JigyosyoCd=2392400061-008PrefCd=238VersionCd=022

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

62 軟な支援により、安心して暮らせている

(参考項目:28)

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成26年10月20日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型の施設をめざすことを念頭に入れ、地域とのつながりを密にしてきた結果、施設の存在を少しずつ認識されてきた感じがします。ニチイ祭りでは近所の方や他の施設のお客様も参加していただき、今後もこのような機会を増やすことができれば良いと思います。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

7. サービスの成身	果に関する項目(アウトカム項目	目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自	1己点検	したうえで、成果について自己評価します		
	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項目	↓該늴	取り組みの成果 当するものに〇印
職員は、利用者 を掴んでいる (参考項目:23,	者の思いや願い、暮らし方の意向 24,25)	1. ほぼ全ての利用者の ○ 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	0	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
利用者と職員か 7 がある (参考項目:18,5	が、一緒にゆったりと過ごす場面 38)	O 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	0	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
利用者は、一人 (参考項目:38)	へひとりのペースで暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	0	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
利用者は、職員 表情や姿がみら (参考項目:36,5		1. ほぼ全ての利用者が 〇 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	0	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
利用者は、戸外 る (参考項目:49)	トの行きたいところへ出かけてい	1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	0	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
利用者は、健康 1 く過ごせている (参考項目:30,3		1. ほぼ全ての利用者が 〇 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う	0	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
利用者は、その	時々の状況や要望に応じた柔	1. ほぼ全ての利用者が 〇 2 利用者の2/3くらいが				

2. 利用者の2/3くらいが

3. 利用者の1/3くらいが

4. ほとんどいない

# 自己評価および外部評価結果

## [セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自	外	- F	自己評価	外部評価	<u> </u>
自己	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I I	里念し	こ基づく運営			
1	(1)	〇理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理 念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して 実践につなげている	職員全体で社是と経営理念を唱和し自覚を 促すと共にその実践に勤めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	町内会に入会し地域行事等に参加し、地域 の一員として交流している。交通立哨にお 客様と参加している。盆踊り大会に参加して いる		
3		〇事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている	地域運営推進会議で、質問、相談会等勉強会を行っている。		
4	(3)	〇運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かし ている	2ヶ月に1度開催している。開かれた施設を めざす。		
5	(4)		毎月10日までには、入居者情報提供書を 提出している。また、毎月空き室情報を提出 している。		
6	(5)	ビス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な	職員全員が拘束の具体的な拘束行為とは 何かを理解している。施錠を含め、身体拘 束は最低限にしている。1F・2Fの出入り口 の施錠は夜間帯のみ。		
7		〇虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法関連の勉強会を開き、防 止に努めている。スローガンとして、虐待を 「しない。させない。見逃さない。」と掲げてい る。		

自己	外	項目	自己評価	外部評価	<b>5</b>
己	部	7. 7.	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		〇権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年 後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要 性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支 援している	スタッフに成年後見人になっている人がいるの で勉強する機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や 家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行 い理解・納得を図っている	管理者が十分な説明を行い理解・納得を得ている。		
10	(6)	〇運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員な らびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている	御家族様が来所された際に職員が話を伺う 様に努めている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のホーム内会議で意見の収集に努めている。また個別に面談を定期的に行う。		
12		など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	法人主催の導入研修やサービステクニカル 研修に参加する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	知多半島内の同業者の方が集う会に参加し 講演会・食事会をし、交流を深めている。。		

自己	外	項 目	自己評価	外部評価	<b>5</b>
己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.3	え心と	:信頼に向けた関係づくりと支援			
15		〇初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	お客様本人の要望を聞く機会を設け信頼関係を築く様に努めている。		
16		〇初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	お客様のご家族様の要望を聞く機会を設け 信頼関係を築く様に努めている。		
17			相談を受けた時に、何が今一番必要とされ ているのか見極めるようにし、他のサービス 利用も提案している。		
18		〇本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とお客様は共同生活を送る者として支 えあう関係を構築できるよう努めている。		
19		〇本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	家族様が面会に来られた時に話をする時間 を積極的に作っている。毎月近況報告書を 送付し、家族様と職員の関係を強くしていく ように努めている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人の自由な面会を支援し関係が途絶えないように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	利用者同士の人間関係把握に日々努めて おり、孤立しないようスタッフが声かけをして関 わりあえるように努力している。		

自	外	項目	自己評価	外部評価	ш
自己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人が他の施設に転居されても、面会に行くなど関係を断ち切らないように努めている。		
		人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン	<b>F</b>		
23	(9)	〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	個々のお客様の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は家族様・知人等から、情 報収集し検討している。		
24		〇これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	個々のお客様のこれまでの暮らしの把握に 努めている。困難な場合は家族様・知人等 から、情報収集し検討している。		
25		〇暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	介護記録を読み、現状の把握に努めてい る。		
26	(10)	〇チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	本人のより良い暮らしのために関係者と話し合い、それぞれの意見が反映されるケアプランを作成している。		
27		〇個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に記録し、情報を共有している。また、その介護記録は介護計画書の見直しの 材料となっている。		
28		〇一人ひとりを支えるための事業所の多機能化本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況に応じ柔軟に支援している。		

自	外	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	自己評価	外部評価	西
自己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		〇地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握 し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな 暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要性に応じて、安全で豊かな生活を営むことができるように支援している。		
30	, ,	〇かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得 が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きな がら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族様の希望を大切にして、提携 医及び納得のいくかかりつけ医と密接な関 係を築き適切な受診ができるように支援して いる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気 づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝え て相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を 受けられるように支援している	提携医の看護職員及び週に一回訪問看護 師の往診の実施で適切な受診が受けられる よう支援している。		
32		そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり を行っている。	お客様が入院した際には病院関係者との情 報共有に努めている。		
33		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い 段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所 でできることを十分に説明しながら方針を共有し、 地域の関係者と共にチームで支援に取り組んで いる	本人・家族様・提携医と話し合い、全員で終末期・重度化の問題について方針を共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職 員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行 い、実践力を身に付けている	年2回の防災訓練を消防署指導のもと実施している。その際には、救急救命法の講義もして頂いている。職員は市内消防署で行われる、救急救命の講義を受講している。		
35		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を全職員が身につける とともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を消防署指導のもと実施 している。		

自己	外	項目	自己評価	外部評価	ш
己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36		〇一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを 損ねない言葉かけや対応をしている	高齢者の尊厳と自立を尊重した言葉かけや 対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	自己決定を最優先し、納得してくらせるよう に支援している。		
38		〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望にそって暮しができるように支 援している。		
39		〇身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	身だしなみやおしゃれができるように支援している。理容師免許保有の職員が有料で安価に本人の希望した時に散髪してもらっている。		
40		〇食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	利用者と職員が一緒に準備・食事・片付け 等をしている。月に数回選択メニューを行い 楽しみとなるようにしている。		
41		〇栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態やカ、習慣に 応じた支援をしている	食事量と水分摂取量は個々の介護記録に 記載し、状態の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎食後口腔ケアを施行し夜間は義歯をはず し洗浄している。3ヶ月に一度、訪問歯科に よる定期検診を実施している。		

自	外	項目	自己評価	外部評価	西
自己	部	, , , ,	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	〇排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとり の力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレで の排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録に記載された個々の排泄パターンを職員が把握し、気持ちよく排泄できるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工 夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に 取り組んでいる	便秘についての勉強をすると共に適切な水 分摂取や食物繊維摂取に心がけている。緩 下剤、運動等個々に応じた予防に取り組ん でいる。		
45	(17)	〇入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決 めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望やタイミングにあわせて入浴を 実施している。週2回以上は入浴できる支 援を実施している。		
46		〇安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じ て、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支 援している	個々の睡眠パターン・睡眠時間等を把握し、 安心して気持ちよく寝られるように配慮して いる。		
47		〇服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用 法や用量について理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	薬手帳を活用し、薬の用法,用量を理解する よう努め服薬支援と症状確認をしている。		
48			張り合いや喜びのある日々を過せるように、 役割や楽しみを持ってもらえるように支援し ている。		
49	(18)	〇日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に応じて近所への散歩や買い 物に出かける支援をしている。年2回の日帰 り温泉旅行に出かけている。		

自	外		自己評価	外部評値	<u></u>
自己	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解し ており、一人ひとりの希望やカに応じて、お金を所 持したり使えるように支援している	本人の希望や力に応じて支払いをし、お金 を所持したり使えるよう支援している。また、 現金は無くさないように金庫で保管し、お小 遣い帳を記載している。		
51		〇電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙 のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話は自由にできるように支援している。		
52		〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、季節の花や利用者様の作 品などを飾り、居心地良く過せる工夫をして いる。		
53		〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利 用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の 工夫をしている	テーブルには気の合った利用者同士が着席できるように配慮している。席替えは臨機応変におこなっている。また、和室も自由につかってもらえるようにしている。		
54	, ,	〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし て、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしてい る	レビ等持参していただき、自分の部屋として		
55		〇一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	個々の力を職員全員が把握し、できること は自分でしていただくよう自立支援を協力し ている。		